

皆さんは動物を餌付けていませんか？

～放任果樹にご用心！！～

日野郡鳥獣被害対策協議会実施隊 チーフ 木下 卓也

こんにちは。暑い日が続きましたが、あっという間に秋ですね。秋といえば、実りの秋！食欲の秋！とすぐに答えてしまう私ですが、これは動物も同じことです。動物にとっては、この時期にしっかり食べて脂肪を蓄えておかないと、厳しい冬を乗り越えられないという切実な問題があります。では質問です。皆さんはこの時期、動物を餌付けてはいませんか？

「動物を餌付けるわけじゃないか！」と言われますが、エサには「人が怒るエサ」と「怒らないエサ」があります。動物にとっては、農作物も木の実も「ただのエサ」であっても、農作物を食べると激しく怒られます。一方で農地周りに捨てた種イモや熟れすぎた野菜はどうでしょう。どれだけ食べても怒られませんよね。秋に実る柿や栗も同じです。

皆さんの家や農地の周りを見回してください。誰も収穫しない柿や栗の木はどのくらいありますか。誰も収穫していないはずなのに実がなくなるということは、何かがエサとして食べているかもしれません。誰も怒らないエサがこんなにあるのに「餌付けしていない」とは言いにくいですね。



写真には、たくさんの柿が実っています。どのくらいあると思いますか？ 2,300個です。1本の木にこんなになるんですね！

この柿の実1個を50gとしてみましましょう。2,300個×50g=115kg。飼育下のイノシシ1頭が1日に食べる飼料の量は平均1kgとされていますので、115kg÷1kg/日=115日。

つまり、4頭のイノシシが約1カ月食べられる量が1本の柿の木に実っていることになります。あくまでも単純計算ですが、ちょっと恐ろしい数字じゃないですか？

柿や栗を食べる動物はイノシシ、カラス、タヌキ、アナグマ、サル、そしてクマです。クマの多い地域では、民家横の柿の木に登って食べつくして帰ったという話があります。動物たちにとって厳しい冬を乗り越えるのに柿や栗は大事な栄養源です。この柿や栗を動物より先に収穫する、もしくは収穫しない木は切ってしまうえば、いわば「兵糧攻め」ができるわけです。

農地や集落で動物たちが「オイシイ思い」をしないようにすることで、味を覚えさせない、おいしいものがあると思わせない、行ってみようと思わせない、「近寄せない」対策になるのです。この秋は放任果樹対策をしてみてもはどうでしょうか？

問 日野郡鳥獣被害対策協議会 電話：0859-72-1399



表紙写真について

タイトル：「ダム湖の朝」

撮影者：日南町 田邊 元己 氏 (日南写友会)

撮影者コメント：少し朝露の立ちこめる菅沢ダムを通りかかり、珍しくダムフェンスのフロートがS字型になっているのを発見し、カメラを構えると突然大きな音がし水面を見ると水鳥が飛び立とうとしていたので急いでシャッターを切りました。

朝から良いシャッターチャンスに恵まれてうれしい気分ので一日過ごすことができました。